

第2回南部町立小学校適正規模等検討委員会 議事録

- ◇ 日 時 平成26年9月17日（火） 午後2時00分開会
午後4時00分閉会
- ◇ 場 所 南部町役場分庁舎第201会議室
- ◇ 出席者 尾山幹雄委員 四條勉委員 若林一明委員 遠藤友佳子委員 森田和人委員
遠藤優一委員 佐野よし子委員 萩原敬委員 木内利明委員 国友昭伸委員
望月幸司委員
若林正昭教育長 青木司学校教育課長 佐野武人主幹 若林将基主査
- ◇ 欠席者 深澤謙治委員 旗持文彦委員 佐野元気委員 山本純司委員

〔第2回検討委員会開会〕

- ・開会あいさつ 教育長
- ・委員長あいさつ 委員長

① 学校の適正規模についての調査について

◇ 事務局：資料により説明。

◇ 質 疑

委 員) 対象者の抽出割合が人口比による場合、人口の比率が低い万沢地区の意見が反映されにくくなるのではないか。そのためアンケート結果の数だけをもって統廃合の決定の資料にはならないのではないか。

委員長) これはどこどこの学校が統合する案を提示して考え方を問うものではない。

事務局) この調査の結果のみをもって、統廃合に賛成か反対かを定めるものではない。町全体でどのような考え方を持っているか調査するものである。各地区、各階層でどのような意見をもっているか調査を行う。したがって、町内で偏りがなくなるように人口割で抽出した。

委 員) 了解。

委 員) 無作為抽出ということなので、世帯で複数届くこともあるか。

事務局) あり得る。

委 員) 検討委員会では統廃合をありきで進めてはいないので、調査票内にある「統廃合」という文言は「適正規模」に変えた方がよい。

委員長) アンケート内にある「統廃合」と文言について、他の言い方ができる箇所は変えた方がいいのではないか。

事務局) そのような方針で変更する。

委 員) 問3の望ましい児童数について、11人～20人等、確定した数を選択肢とするのではなく、20人程度などの選択肢の方がよいのではないか。

委員長) 20人位、30人位というような選択肢の方がいい。

委 員) カッコ書きで記入してもらったらどうか。

委 員) 参考資料に20人程度が望ましいという記載がある。回答者が万沢、富河小の統合を想定するような場合は2校を統合しても20人に満たない学級もある。今回は、そういうことを調査するのではなくて、一般的にどの程度の人数が適正化と考えるか問うもので

あると思う。選択肢として考えた場合、30人は2クラスの基準となり必要であり、20人は望ましい規模として必要。10人以下もきめ細かい指導ができる規模として必要だろう。通常は10人以下であれば、小規模のデメリットとあげられる、競争力を養い切磋琢磨することが少なくなることから選択される人も少ないだろう。

委員) 20人位、30人位という選択肢がいい。

委員長) では、位、程度という選択肢としよう。

委員) 問8の選択肢④「地域の公共のいち施設としての拠点がなくなる」と⑤「地域の交流の場がなくなる」は同じ意味合いではないか。また、母親の意見として、小学校は徒歩で通ってほしいと思う。登下校中に色々な発見などがあるほか、体力向上にもつながっていく。また、各小学校単位で行われている学童保育が、統廃合によりなくなってしまうと困る。そういう選択肢も入れた方がいいのではないか。

委員長) 公共のいち施設としての学校という性格と、交流の場としての学校という性格のそれぞれがあるのではないか。公共の学校は防災施設としての性格、交流の場の学校は運動会開催などの性格があげられ、それぞれの側面があるのではないか。分けるか、分けないか。

委員) 持っている意味に若干の違いがあるうえ、地域としてのなかの学校の存在意義は以前から強く言われているので、選択肢はそのまま残した方が良い。

委員) 公民館等の他施設の状況により、地域によって学校の存在も違っている。そのまま残した方がいい。

委員) 問6の選択肢に、通学路や児童の安全に関する選択肢が入ったほうが良いと思う。

委員) 私もそう思う。中学校の統合の際も、保護者の送り迎えが多くなっていて、重要なポイントだと思う。

委員) そういった意味合いも①「生き抜く力の育成」の選択肢に含まれるのではないか。選択肢があまり多くない方が良い。

委員) 児童の教育を一番に考えた場合、②③の選択肢よりも児童や通学路の安全の方が重要だと考える。また、④学校予算の削減という選択肢もいかなものか。

委員) 前回の会議によって、財政の視点によらないことを確認したので、学校予算の削減という選択肢はなくした方が良いと思う。

事務局) 保護者の方は児童生徒のことを考えて回答するが、一般町民の方はどのような考え方をするのか調査するため、②③④の選択肢を設定した。

委員) 問7について、選択肢を増やして、統合校を仮定して意見を聞いたらいいのではないか。

委員) ここは小規模学校をどうとらえるかであるので、統合校の例えはいらないと思う。

委員長) あくまでも、検討委員会からは統廃合の方向は示さない。地域や保護者の意見を十分取り入れて、要望があったら進めるといようなスタンスは崩すべきでない。

委員) 問8問9と同じように、問6は選択肢をそのままにして⑤その他具体的にご記入くださいを追加したらよい。

委員長) 委員の皆さまの意見がなければ、今の提案どおり取扱いたい。

委員) 防災面からの視点で、万が一災害が発生した場合にスムーズな引き渡しが行われるためには、保護者が徒歩で迎えに行ける場所に学校があることが理想だと思う。

委員) 学校予算の削減とは厳しすぎるので、財政の効率化とした方がよい。

② 中学校統合に係る状況調査票

◇ 事務局：資料により説明。

◇ 質 疑

委 員) 問1から問5まで3段階評価になっているが、どちらともいえないを選びやすい。こういう調査の場合は、4段階評価にした方が全体の評価がみえるのではないか。いいことも悪いこともあっても、回答を選択してもらう目的があるのではないか。

副委員長) どちらともいえないを加えた5段階評価とした方がよいのではないか。

委 員) 問8のように4段階にどちらともいえないを加えた5段階評価とした方がよい。

事務局) 事務局で検討します。

委 員) この調査は子どもたちが変わるので毎年調査したほうがよい。

③山梨県内の小学校数・児童生徒数について

◇ 事務局：資料により説明

委 員) 広報紙に掲載されている人口数と違いがあるのはなぜか。

事務局) この数値は、国勢調査の数値からの増減により計算された資料である。町広報に掲載されているのは住民基本台帳の数値である。

③ 視察について

事務局:10月下旬から11月上旬に万沢小学校の視察を考えている。10月30日(木)が候補。

⑤その他

・委員長から H23 峡南地区小規模学級経営研究会資料により、当時の万沢小学校小規模学校の課題とその克服のための教育実践について説明する。

委員長) 前回、H20.11.17 答申書には、「本検討委員会では、これから両側面を本町の小中学校の実情に照らし総合的に議論した結果、1学年に1学級しかなく、クラス替えも出来ないような小規模校・過小規模校の状態では、学校の士気が上がらず、デメリットの方が格段に大きく、教育上多くの課題が認められるとの共通認識を持った」と記載されている。前回のこの考え方をどう考えるか、今後検討委員会で審議していきたい。

副委員長) 関連して教職員について思うところがある。小規模校の短所課題を考えると児童数の少なさもあるが、一方、教職員の年齢が上がっていることも要因になっている側面がある。経験を積んだ教職員から安定した教育を受けることができると同時に、新しい事柄に取り組みにくい面がある。しかしながら、統廃合してもクラス数が増えなければ教員数も増えないので、このことは統合によって必ずしも解決するようなものではない。

・事務局) 今回協議していただいた調査票については、一度校正したものを委員の皆さまにお送りしますので、ご確認ください。

委員長) 以上で協議を終了します。

閉会あいさつ) 副委員長

第2回の検討委員会を終了します。

以 上